

1 青少年の体験活動等に関する意識調査（平成28年度調査）

<キーワード> 自然体験、生活体験、お手伝い、生活習慣、自立的行動習慣

国立青少年教育振興機構は、我が国の青少年の体験活動等の現状を把握するため、平成18年度より自然体験、生活体験などの体験活動の状況や日々の生活習慣の実態、自立に関する意識等について全国規模の調査を実施している。

平成28年度調査では、多様で変化の激しい社会において個人の自立の必要性が指摘されていることを踏まえて、将来の社会的自立の基礎となる資質能力として青少年の自立的行動習慣に関する指標である「自律性」、「積極性」、「協調性」に着目し、自然体験、生活体験、お手伝いといった体験活動、早寝早起き朝ごはんや携帯電話・スマートフォンの利用時間といった生活習慣、自己肯定感や心身の疲労感に関する意識等との関係について分析した。

1. 目的

青少年教育関係者が実施する事業の企画立案、運営等に資するため、青少年の体験活動等や自立に関する意識等の実態について全国規模の調査を実施し、基礎資料を提供する。

2. 方法

（1）調査内容

1）青少年調査

- ・自然体験、生活体験、社会体験、お手伝いの実態
- ・生活習慣等の実態
- ・自立的行動習慣、自己肯定感
- ・携帯電話・スマートフォンの使用 他

2）保護者調査

- ・公的機関が行う行事への参加
- ・子供の自然体験活動に対する意識
- ・保護者の子供へのしつけや教育等に関する実態
- ・保護者の自然体験の実態
- ・世帯収入や子供の教育費 他

（2）調査対象

- ・全国の公立小学校1年生、2年生、3年生の保護者 7,613名
- ・全国の公立小学校4年生、5年生、6年生の合計 8,158名とその保護者 8,156名
- ・全国の公立中学校2年生 4,652名
- ・全国の公立全日制高等学校2年生 5,506名

（3）調査時期

平成29年2月～3月

3. 主な調査結果

（1）青少年の体験活動の現状

自然体験について「何度もある」と「少しある」と答えた割合の合計が大きかったのは、「海や川で泳いだこと」（82.8%）、「夜空いっぱい輝く星をゆっくり見たこと」（80.6%）であり8割以上であった。一方、「大きな木に登ったこと」（58.1%）と「キャンプをしたこと」（56.2%）は6割以下で、「ロープウェイやリフトを使わずに高い山に登ったこと」（41.6%）は合計が5割以下で小さかった（図1）。

生活体験について「何度もある」と「少しある」と答えた割合の合計が大きかったのは、「タオルやぞうきんを絞ったこと」（98.5%）、「ナイフや包丁で、果物の皮をむいたり、野菜を切ったこと」（90.1%）であり9割以上であった。一方、「赤ちゃんのおむつをかえたり、ミルクをあげたこと」は31.3%で合計が3割程度で小さかった。

お手伝いについて「いつもしている」と「時々している」と答えた割合の合計が大きかったのは、「買い物のお手伝いをする事」（74.1%）、「食器をそろえたり、片付けたりすること」（73.8%）であり7割以上であった。一方、「靴などをそろえたり、磨いたりすること」（50.6%）、「ペットの世話とか植物の水やりをする事」（44.4%）は合計が5割程度で小さかった。

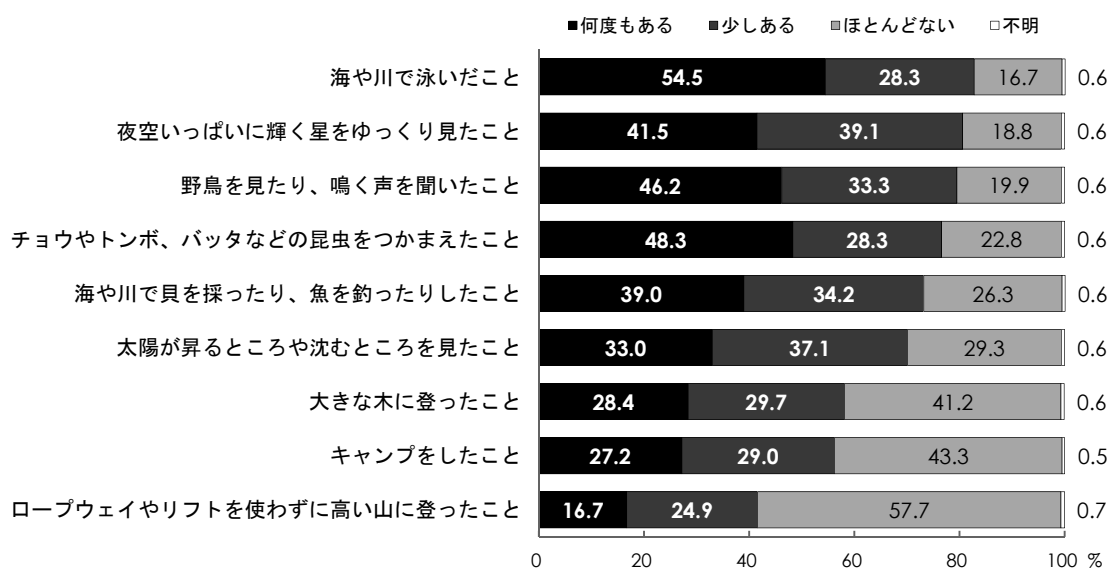


図1 自然体験の現状（小4～小6、中2、高2）

（2）青少年の意識と体験や生活習慣との関係

小学生、中学2年、高校2年の回答をあわせて、自立的行動習慣に関する指標と自然体験、生活体験、お手伝い、生活習慣や意識について、それぞれクロス集計を行った。

その結果、自然体験や生活体験が豊富な子供や、日ごろから家庭でのお手伝いをよくしている子供ほど、「自律性」、「積極性」、「協調性」の高得点群の割合が大きくなる傾向がみられた。また、自分用の携帯電話・スマートフォンを所有している子供のうち、1日の利用時間が1時間未満の子供は「自律性」、「積極性」、「協調性」の得点が高く、利用時間が長くなるほど得点が低くなる傾向がみられた。さらに、自己肯定感が高い子供や、心身の疲労感が弱い子供ほど、「自律性」、「積極性」、「協調性」の高得点群の割合が大きくなる傾向がみられた。

向がみられた。早寝早起きで朝ごはんを毎日食べている子供が、「自律性」、「積極性」、「協調性」の高得点群の割合が最も大きかった（図2～4）。

自己肯定感と体験や生活習慣とのクロス集計を行った結果、自然体験や生活体験が豊富な子供ほど、自己肯定感の高得点群の割合が大きくなる傾向がみられた（図5～6）。また、生活体験が豊富な子供や、日ごろから家庭でのお手伝いをよくしている子供ほど、自己肯定感の高得点群の割合が大きくなる傾向もみられた。

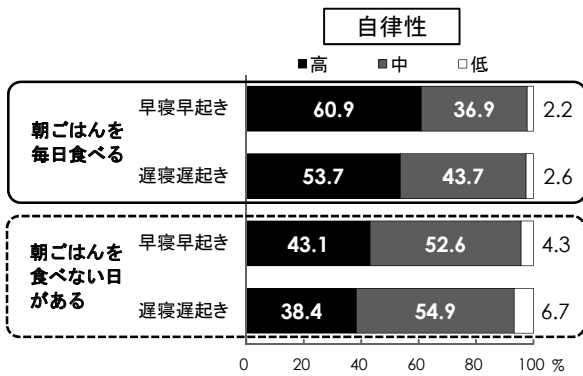


図2 就寝・起床・朝食の習慣と自律性の関係（小5、中2、高2）

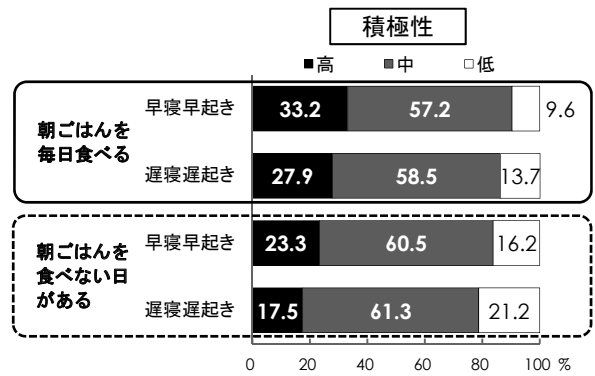


図3 就寝・起床・朝食の習慣と積極性の関係（小5、中2、高2）

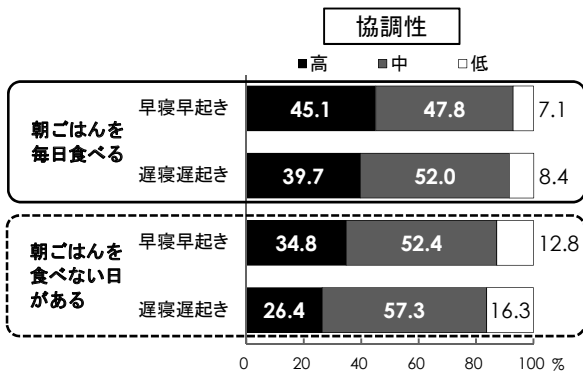


図4 就寝・起床・朝食の習慣と協調性の関係（小5、中2、高2）

注）「朝ごはんを毎日食べる」とは、「朝、食事をとること」という質問に対して「必ずしている」と回答した子供を指している。また「早寝」とは、学年ごとの平均的な起床時刻をもとに、小学5年で午後10時以前、中学2年で午後11時以前、高校2年で午前0時以前に就寝することを指し、「早起き」とは全学年共通で午前6時30分以前に起床することを指している。

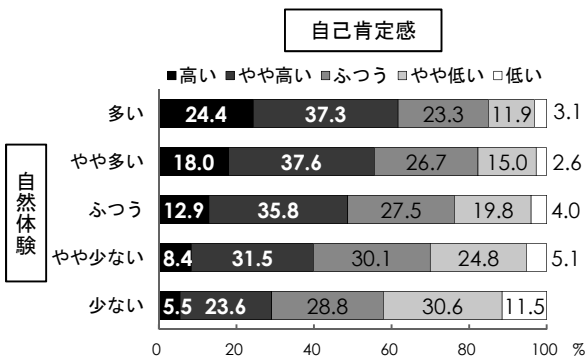


図5 自然体験と自己肯定感の関係（小4～小6、中2、高2）

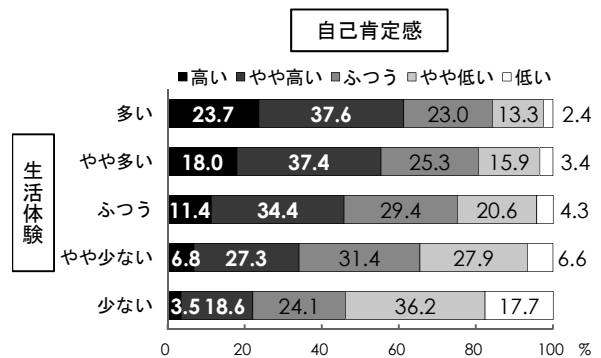


図6 生活体験と自己肯定感の関係（小4～小6、中2、高2）

（3）保護者の自然体験や家庭環境と子供の体験の関係

小学生の体験活動とその保護者の自然体験についてクロス集計を行った結果、保護者の自然体験が豊富なほど、その子供の生活体験、自然体験、お手伝いの体験も多くなる傾向がみられた。

1年間に公的機関や民間団体等が行う学校以外の自然体験活動に関する行事へ、子供が参加した割合は52.3%であった。

その割合について、世帯年収ごとに分析した結果、世帯年収が上昇するにつれて、学科以外での自然体験活動への参加割合は上昇していた。「児童館や公民館などの公的施設」、「子ども会やスポーツ少年団などの青少年団体」、「PTA・自治会・町内会などの地域の団体」への参加割合は、世帯年収600万円以上800万円未満の保護者で最も大きかった。一方で「スポーツクラブや学習塾」への参加割合は、世帯年収が1,200万円以上で最も大きかった。世帯年収によって、子供が自然体験活動を行う機会や内容に相違が生じていることが指摘できる。

4. まとめ

日頃から「早寝早起き朝ごはん」を行っている子供、携帯電話・スマートフォンの利用時間が1日1時間未満の子供、自然体験や生活体験、お手伝いを多く行っている子供は、「自律性」、「積極性」、「協調性」が身につけている傾向がみられた。そして、自己肯定感が高い子供や、心身の疲労感が弱い子供ほど、「自律性」、「積極性」、「協調性」が身につけている傾向もみられた。また、保護者の自然体験や世帯年収によって、子供の体験活動に相違が生じていることが示唆された。

【参考】青少年の体験活動および意識等に関する質問項目と区分

<p>生活体験に関する質問項目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ナイフや包丁で、果物の皮をむいたり、野菜を切ったこと ・タオルやぞうきんを絞ったこと ・道路や公園などに捨てられているゴミを拾ったりしたこと ・弱いものいじめやケンカをやめさせたり、注意したこと ・赤ちゃんのおむつをかえたり、ミルクをあげたこと ・小さい子供を背負ったり、遊んであげたりしたこと 	<p>お手伝いに関する質問項目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・買い物のお手伝いをする ・新聞や郵便物をとってくる ・靴などをそろえたり、磨いたりする ・食器をそろえたり片付けたりする ・家の中のお掃除や整頓を手伝う ・ゴミ袋を出したり、捨てる ・お風呂洗いをしたり、窓ふきを手伝う ・お料理のお手伝いをする ・ペットの世話とか植物の水やりをする 	
<p>自己肯定感に関する質問項目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校の友だちが多い ・学校以外の友だちが多い ・勉強は得意 ・今の自分が好き ・自分には、自分らしさがある ・体力には自信がある 	<p>心身の疲労感に関する質問項目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いらいらしたり、むしゃくしゃしたり ・悩んだり、落ちこんだり ・ものごとに集中できない ・特に運動やスポーツもしないのに、ふだん疲れていると感じる 	
<p>自立的行動習慣に関する指標（「青少年の体験活動等と自立に関する実態調査（平成18年度調査）」を元に作成）</p>		
<p>＜自律性＞（12点満点）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人の話をきちんと聞く ・ルールを守って行動する ・周りの人に迷惑をかけずに行動する ・自分でできることは自分でする 	<p>＜積極性＞（12点満点）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・困った時でも前向きに取り組む ・自分の思ったことをはっきりと言う ・人から言われなくても、自分から進んでやる ・先のことを考えて、自分の計画を立てる 	<p>＜協調性＞（12点満点）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・困っている人がいたときに手助けをする ・友達が悪いことをしていたら、やめさせる ・相手の立場になって考える ・誰とでも協力してグループ活動をする

（文責 青少年教育研究センター 客員研究員 池田 幸恭）